

# 修了生通信

## あしはら

2025年3月

部落解放・人権大学講座  
2024年度 修了生通信

### 解放大学第一期生からの発信

(一財)大阪府人権協会 代表理事  
田村 賢一

私にとって、解放大学での学びの持つ意味を考えてみました。1974年当時の私の認識を述べます。

1969年から始まった同和対策事業特別措置法（当初は10年の時限立法として設定）の中間年にあたる1974年に私は初めて支部執行委員になりました。第一期では、推進者の育成という考えで、運動専従者、同和教育担当教員、同和事業推進協議会（府、大阪市）職員が参加しています。この範疇に入らない地域の、しかも初心者の私は異質の存在で、2～3人の講師を除いて初めての講師陣でした。米田富さん、原田伴彦先生、小野義彦先生等から、水平運動の歴史や思い出、解放理論、部落史、同和教育、労働運動、哲学（唯物史観）、経済学（マルクス主義）等が講演されるのですが、半分も理解できず困りました。しかし、子ども会活動、富田林での支部活動、青年部活動等に活用するため、必死にメモを取ったことを覚えています。それまでの運動・学習不足により、かけがえのない学習機会であったのに十分理解出来なかったことを残念に思いますが、解放大学での系統だった学習が私の生きる力の土台を形成したと思っています。

以降、支部活動、教育運動、人権啓発等に従事し、50年が経過しました。学ぶということは、単に組織経営にとどまらず、人格形成につながるものと思っています。

解放大学50年の取組の中で、学習分野の拡大にともない、企業、行政、更には府外からの参加者もあるようで、貴重な学び・交流になっていると聞いています。

数年前に助言者として『自己啓発学習』に関わって感じたことに触れます。大半の参加者

は、それまでの学習を、講座での学習とつなげて理解を深め、かつて刷り込まれた差別意識をそぎ落とし、人権意識が高まっていく様子に触れることが出来ました。しかし、初めて部落問題を知った参加者もいて、意識変革ができたのか不安に思うこともあり、2002年の事業法終了後の学校現場での部落問題学習低下の中で育った年代の育成が必要とも感じました。

最後に、解放大学で出会った人達との素敵な時間を共有した経験を紹介します。私は、1985年の全国行進（鹿児島から大阪まで）に参加しました。少数点在下での解放運動、理解の低い自治体、子ども達の頑張り、氏子からの排除問題等に触れ、とても貴重な経験でした。半分の隊員は企業、宗教者、教職員で、しかもこの人達の多くは解放大学修了生でした。この行進は学習の学び直しになり、より部落問題の理解が深まりました。夜の打合せや行進中の会話は、多くの事を相互に学びあう場になりました。この人達が同企連、同宗連の基礎の一翼を担ったと確信しています。有意義な取組に参加出来たことに感謝しています。また、今日までの解放大学での学びもそうであると信じています。

イギリスの隣保事業で最初にできた施設「トインビーホール」（1884年）の紹介の中で「セツルダウン」が取り上げられることがあります。厳しい貧困が蔓延する地域に住み込み、住民の生活を守り、福祉活動を担う実践（セツルダウン）が150年後の今日においても継続されています。解大修了生には、部落問題、人権問題、福祉問題等の学びにおいて、職場や組織において「マインドをセツルダウン」させて欲しいと願っています。

## 2024年度の解放大学（120期）プログラム

### 定着してきた対面とオンラインの併用

2024年度の部落解放・人権大学講座も前年度同様、対面講義とオンライン講義を併用で開講しました。今年度で3年目となります。この間の経験をいかして、開講中も含め改善、改良していくことを心がけ、プログラム（次ページ）を実施しました。

開講期間は年末および年度末、また8月の部落解放・人権夏期講座（高野山）の開催時期を極力避け、かつ、会場確保の都合上、7月14日に開講、翌年1月25日までの約7ヵ月間、全24日間のプログラムをおおよそ週1回ペースで進めました。

また、今年度も前半の一部のオンライン講義については、当研究所が主催する人権啓発東京講座（全12日間）との合同プログラムとして実施しました。

### 講座の流れやオンラインでの工夫

開講日は開講式後に「開講にあたって」心がけていただきたいことをお伝えし、「開講オリエンテーション」として120期全体で自己紹介、ワークを通して個人での自己紹介を行い受講生同士の交流を図りました。また、初日から班のメンバーとの交流を通じて、共に学ぶ仲間としての意識を高めました。

その後、「部落問題はいま」を皮切りに、6日目までは部落問題（歴史や現状）を軸に講義を進め、7日目からは多様な差別・人権問題に関する講義を進めました。

1コマの講義は180分とし、そのうち講師には60分の講演を10分休憩をはさんで2回行っていただきました。前半と後半を分けることでメリハリが付き、受講生・講師ともに集中した講義になりました。その後、受講生同士（4名程度）のグループ討議を20分行い、最後に講師との質疑応答を30分行う時間配分としました。



グループワークの様子

オンラインでのグループ討議は、Zoomのブレイクアウトルームを活用して行いました。グループ分けは、班ごとで行ったほか、期全体や東京講座の受講生との間でミックスして行うこともありました。グループ内で講演を受けての感想や理解度、疑問に思ったことなどを共有し、話し合った上で質疑応答を行うようにすると、とても活発で充実した時間になりました。

### フィールドワークはコース別など3回実施

フィールドワーク（FW）は全て現地へ行きました。FWⅠ（9月中旬）は受講生全体が2日間に分かれて堺市内にて部落問題を学びました。

FWⅡ（10月上旬）は希望を調整しながら、生野コースでは在日コリアンの歴史と文化および現在のコリアンタウンの様子を学び、西成コースでは釜ヶ崎の野宿労働者のおかれている現状について学びました。

FWⅢ（11月上旬）も同様に、大阪市住吉コースと高槻市富田コースに分かれました。

それぞれの地域での部落差別の現実をふまえ、差別に負けない地域の人々、また、地域と官民が連携した人権のまちづくりの実践や、隣保館（隣保事業）の役割を現地でじかに学ぶことができました。

（4ページにつづく）

## 2024年度 第120期 部落解放・人権大学講座 プログラム・日程

回	グループ1	グループ2	実施方法	午前の部 (9:30~12:30)	午後の部 (13:30~16:30)
				午前・午後の各1コマの基本的な構成 講演60分・休憩10分・講演60分・討議20分・質疑30分	
1	7月18日(木)		対面	【開講式】【開講オリエンテーション】 【記念講演】丸山 明宏さん	【部落問題はいま】川口 泰司さん
2	7月26日(金)		対面	【部落問題入門】奥田 均さん	【マジョリティ特権を考える】 出口 真紀子さん
3	8月2日(金)		対面	【部落解放運動の現状と課題】 赤井 隆史さん	【日常の中の差別—マイクロアグレッション】 丸一 俊介さん
4	8月6日(火)		オンライン	【部落問題の歴史(前近代)】 矢野 治世美さん	【部落問題の歴史(近現代)】 友永 健三さん
5	8月29日(木)		オンライン	【司法と人権】大川 一夫さん	【見た目の差別】外川 浩子さん
6	9月5日(木)		オンライン	【ビジネスと人権】菅原 絵美さん	【メディアと人権】下村 健一さん
7	9月12日(木)	9月13日(金)	FW①	【人権・同和教育から学ぶこと】土田光子さん	【フィールドワークⅠ 部落問題学習】堺市
8	9月19日(木)		オンライン	【合理的配慮と創造的思考— 平等を実現するための方法】飯野 由里子さん	【差別をなくす社会システムのあり方】 北口 未広さん
9	9月25日(水)		オンライン	【水俣病問題の歴史と現在】 田尻 雅美さん	【社会的排除・生活困窮者問題】 奥田 知志さん
10	10月2日(水)		FW②	【在日コリアンの歴史・文化・差別】 文 公輝さん	【フィールドワークⅡ】 (生野コース)大阪コリアタウンで考える多民族共生 (西成コース)ホームレス問題と釜ヶ崎
11	10月9日(水)		対面	(部落問題) 澤井 未緩さん	【被差別当事者から学ぶ】 (障害者) 玉木 幸則さん (ハンセン病) 黄 光男さん
12	10月17日(木)	10月18日(金)	対面 班活動	【自己啓発学習—①】	
13	10月23日(水)		オンライン	【自死(遺族)問題】和泉貴士さん	【LGBTQをとりまく社会】中島 潤さん
14	10月31日(木)		オンライン	【日本社会と外国人労働者】 望月 優大さん	【ジェンダーの視点からみる人権問題】 申 恵丰さん
15	11月6日(水)		FW③	【フィールドワークⅢ 人権のまちづくり】 Aコース(高槻市富田地区) Bコース(大阪市住吉地区)	
16	11月14日(木)		オンライン	【日本のHIV・AIDS問題の今】 花井 十伍さん	【リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】 染矢 明日香さん
17	11月22日(金)		オンライン	【ハンセン病問題】黒坂 愛衣さん	【アイヌ民族「問題」】竹内 渉さん
18	11月26日(火)	11月27日(水)	対面 班活動	【自己啓発学習—②】	
19	12月3日(火)		対面	【これからの人権教育・啓発】 森 実さん	【人権(ハラスメント)相談のあり方、進め方】 桑野 里美さん
20	12月10日(火)	12月11日(水)	対面 班活動	【自己啓発学習—③】	
21	12月17日(火)	12月18日(水)	対面 班活動	【自己啓発学習—④】	
22	1月9日(木)		オンライン	【誰も取り残さない社会の実現に向けて】 松波 めぐみさん	【沖縄の問題を国際人権法の 観点から考える】阿部 諒さん
23	1月17日(金)		対面	【国際的、諸外国の人権状況と 人権諸条約について】小森 恵さん	【人権研修の基礎基本】堀井 悟さん
24	1月24日(金)		対面	【修了ワークショップⅠ】	13:30~14:00 【修了ワークショップⅡ】 14:00~15:30 【総括講演】谷川 雅彦さん 15:40~17:00 【修了式】

FW(フィールドワーク)、対面学習、班活動 ※1日の講座終了後は16:30~17:00に講座のふりかえりを行った。

## 「当事者から学ぶ」から「私の水平社宣言」へ

10月には「被差別当事者から学ぶ」として、「被差別部落」「障害者」「ハンセン病元患者家族」の人権課題にとりくむ当事者の方より対面でご講演いただきました。時間は90分と他の講義より短時間でしたが、講師が体験された差別の様子、そのときの困惑や葛藤など複雑な感情とともに、それでも差別に立ち向かう姿に共感し、自身の経験と重ね合わせることができました。その後につづく自己啓発学習にもつながる学びとなりました。

「被差別当事者から学ぶ」の1週間後（10月中旬）に自己啓発学習の1回目を行いました。2回目以降は11月下旬から12月中旬にかけて、全4日間で行いました。各班9人の受講生に対し2人の助言者に加わっていただき、班員の議論をサポートいただきました。1日目はこれまでの講義をふりかえり、「学びとなったこと」や「よくわからなかったこと」を共有しながら、まずは「自分が出会った部落問題・人権問題をふりかえる」時間を設けました。すぐに思い出せない方は年表を作成するなどして取り組みましたが、ほとんどの方が何かしらの人権問題に出会ってきたことが浮き彫りになりました。各班、とてもエネルギーを消費する時間となりました。

それらの経験を基に、修了課題「私の水平社宣言」の執筆内容を絞り込みました。2日目以降は班員一人ひとりが自分の執筆した宣言について、根拠や背景を発表し、深掘りをしながら、助言者や班員の意見やアドバイスを交換し、修了課題の完成をめざしました。

「私の水平社宣言」は、全国水平社創立100周年の2022年から自己啓発学習で取り組んでいます。「私」を主語に受講生自身の身近にあった人権問題や今まで気づかないまま生きてきた「これまで」に気づき、修了後の「これから」を見据え、言葉にして残そうというものです。今期もご自身の生い立ちなどプライベートなことや仕事に関わることなど、多様なテーマで執筆いただきました。



フィールドワークの様子

## 「共に学ぶ仲間」を実感した最終日

1月24日の「修了の日」には、各班から一人ずつ「私の水平社宣言」を発表いただきました。受講中に「あのさ、部落って知ってる？」とパートナーや友人に伝えたが、自分の言葉で説明するのは難しかったことや、受講中に学んだことをさっそく職場で実践されたことを語ってくれた方もいました。

自身の日頃の業務は人権の視点をもってどう仕組みをつくっていくのか、どう周囲へ広めていけるのか、はじめの一步はなにができるのかなど、これからの希望を見出す発表が多かったように思います。他班の発表を受けて受講生同士がさらに気づき合い、また学び合った時間となり、解放大学が大切にしている「共に学ぶ仲間」を実感しました。

本来の業務と並行しての解大受講は、非常に負担であったことと思います。お一人が職場退職のため受講継続を途中で辞退されましたが、他62名の受講生が無事に修了いただいたこと、事務局として嬉しく思います。

解放大学で学んだことを出会った仲間と共に、今後益々発展させてくださることを期待します。（講座事務局 小西）



メイン会場・AIAIおおさかの前で

## 解放大学50周年記念誌の発行

1974年に第1期部落解放大学講座が開講して今年度で50周年を迎えることから、部落解放・人権研究所では2024年6月27日に開催した総会にあわせて、『部落解放・人権大学講座50周年記念誌—学ぶ・つながる・進める—』（A4版44ページ）を発行しました。

記念誌では解放大学に関わる多くの方々にご寄稿いただき、解放大学における学びや、学びの過程で得られるものについて貴重なご意見をいただきました。

今後、解放大学を受講される方への資料としても大いに活用したいと考えています。

現在、冊子をご希望の方には無料配布しています。部落解放・人権研究所事務所で受け取りいただくか、着払い郵送（170g/冊）にてお送りします。ご希望の方は、以下の申込フォームまたはE-mailにてご連絡ください。

◎申込フォーム：<https://ws.formzu.net/dist/S99459501/>

◎E-mail：以下5項目をご明記の上、kaidai@マークblhrii.org

へ送信ください。①お名前 ②ご所属 ③解大修了期

④希望部数 ⑤研究所受け取り（来所予定日）or 郵送（送付先住所）



### 記念誌の掲載内容（目次より編集）

ご挨拶 一般社団法人 部落解放・人権研究所 谷川雅彦代表理事

#### 第1章 お祝いのメッセージ

部落解放同盟中央本部・西島藤彦委員長／部落解放同盟大阪府連合会・赤井隆史執行委員長  
吉村洋文大阪府知事／横山英幸大阪市長／永藤英機堺市長  
大阪同和・人権問題企業連絡会・丸山明宏理事長／東京人権啓発企業連絡会・服部雅幸理事長  
『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議・戸田光隆議長

#### 第2章 「解放大学とわたし」

研究所から 上杉孝實さん／友永健三さん／椎葉正和さん／中田理恵子さん  
講師から 北口未広さん／奥田均さん／出口真紀子さん／桑野里美さん  
助言者から 塩谷幸子さん／梶山武志さん／安藤正彦さん／堀篤子さん  
同窓会から 鷹家誠治さん（99期）／山崎紳司さん（64期・109期）  
フィールドワークほか協力団体から 文公輝さん／山田實さん／岡本茂さん／大原和子さん  
受講生から 桜井さん（13期・96期）／岡井さん（37期）／保田さん（54期）  
平松さん（66期）／加藤さん（96期）／山田さん（100期）／森貞さん（102期）  
鈴村さん（108期）／清水さん（112期）／山崎さん（118期）  
歴代担当者から 加藤敏明さん／栗本知子さん／川本和弘さん／小西愛里紗さん

#### 資料編

部落解放・人権大学講座のあゆみ／年表でふりかえる部落解放・人権大学講座のあゆみ  
部落解放・人権大学講座の主な内容と特徴／第1期開催要項（一部）  
第120期プログラム・日程／修了生の交流の場／過去受講生を派遣された組織

## 解放大学50周年への修了生メッセージ

解放大学50周年記念誌では、「解放大学とわたし」として、講師や助言者らとともに修了生にも寄稿いただきました。

事務局ではこの修了生通信でもご寄稿をいただきたく修了生に呼びかけました。

ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げ、ここに掲載させていただきます。

\*\*\* \*\*

「解放大学とわたし」

32期 井上（安治川鉄工）

1992（H4）年1月に第32期生として解放大学を受講し、当時は毎週月曜日から木曜日まで集中して講義・研修がありました。当時の部落解放同盟中央本部委員長の上杉佐一郎さんの開講の辞（挨拶）が今でも記憶にあります。

当時は私も天皇制とか歴史にあまり興味がなく、助言者の先生（たしか牧師さんだったと記憶しています）と、なぜ元号を使用してはいけないのか、論争をしたりしていました。この時に勉強したことが今の人権啓発の仕事に役立っています。

その後、2009（H21）年に部落解放同盟大阪府連の「人権人材」育成の取り組みとして開講していた「21世紀人権政経塾」第3期に入塾し、仲間11名とともに部落差別の実態・調査から若年者の雇用問題に至るまで、広く、深く勉強したりもしました。当時の仲間には今の部落解放大阪府民共闘会議事務局の松村さんや、部落解放同盟大阪府連合会書記の大和さんなどがいます。

今後の部落解放・人権大学講座の益々の発展を願っております。

「解大で身近になった人権意識でさらに学びを続けて」

102期C班 阪倉（当時 四條畷市）

部落解放・人権大学講座50周年おめでとうございます。長年にわたり、人権と向き合う人々の気づきや学びを支えて来られたことに敬意を表します。

さて、私が解大を受講したのは、約13年前、四條畷市保険年金課に在職していた頃のことです。中学・高校・大学の授業・講義でも部落問題をはじめとする人権について学んできて、解大についても、自分自身から前向きに受講しました。社会人2年目だった私が、班長を任せていただき、社会人の先輩方に支えてもらいながら、宿泊研修もあって、周りの受講者との一体感は高まりました。今でも、年賀状のやり取りが続く班員もおり、毎度、「今年こそは同窓会をしましょう！」とのやり取りを続けています。

その後、堺市の司書職での採用試験を受験して、現在は、堺市立図書館で勤務しています。102期では堺市から3人の方が受講されていて、今もそれぞれの職場に立ち寄るなどし、顔の見える関係を続けています。堺市では、各課に人権主担者が配置され、2年間、班別にグループ学習や課内研修をするなどし、各職場で人権意識を高める取組をしています。私は2022・23年度に人権主担者となり、フィールドワーク先を複数提案し、資料提供などで班活動に積極的に関わりました。

そして、大阪府の「人権ファシリテーター養成コース」なども受講し、そこで学んだことを課内研修で還元するなど、人権の学びも続けています。

「人権」と聞くと難しいと敬遠する人もいらっしゃると思いますが、私は、解大に参加したことで、「人権」は身近なこととして、気づけなかった人権についても学び続け、向き合いたいと感じられるようになりました。共に学んだ102期の皆さんとも再会したいと、常に思っています。

\*\*\*

「解放大学での学びと、  
その後につながるご縁」

104期E班 福井（佐藤工業）

解放大学を卒業して12年、思い返せば、初日にいきなり1コマ4時間（3時間？）の講座を受講し、心身ともに疲れ果てました。帰り道、日が暮れた弁天町を歩きながら、「本当に半年間やっていけるのだろうか…」と、不安を感じたのを覚えています。

しかし、講座が進むにつれ、これまで触れたことのなかったさまざまな分野の学びが新鮮で、毎回刺激を受けながら受講していました。また、帰りには班の皆さんと弁天町駅前の居酒屋に集まり、意見を交わしながら語り合ったのも懐かしい思い出です。気がつけば、3月の卒業時には「あっという間だった」と感じていました。

そして現在、12年ぶりに大阪で社内の人権啓発担当を務めています。また、大阪同企連では責任者・担当者として活動しており、解放大学でお世話になった元事務局の川本さんと同じグループで一緒に活動する機会にも恵まれました。改めて、解放大学を通じたご縁の大切さを感じる今日この頃です。

「解放大学の振り返り」

106期A班 梅田（伊賀市）

「人権について学ぶ」ことに加えて、私が解放大学に行こうと思った理由の一つに、さまざまな業種の方が参加していることがありました。普段の職場を含めて行政職以外の方たちとの交流がしたいと思いました。実際に解放大学へ通うと、業種はもちろんですが、年齢層、生活圈等も幅広く、初めて聞くことも多く、とても刺激的であったことを思い出します。宿泊研修での自己史作成は、作成中は大変でしたが、振り返ってみると、作成前はなんとなくモヤモヤとしていた記憶を、助言者や班の仲間の助言も踏まえて、丁寧に思い出しながら作ることで、自分の出会った差別事象とその時の自分の行動と想い、そして、自分の偏見や差別心に繋がる原因について整理が出来ました。今はそれが出発点となり、さらに掘り下げたり、人権学習等で気付いた他の偏見のルーツを考えたりしています。

しかし振り返ると、解放大学卒業後、しばらくは人権意識も高く、研修にも参加していましたが、参加回数も段々と減り、人権問題について話す機会も減っていました。私は、解放大学の講座を受けて人権問題を分かっているつもりになっていました。卒業してからアップデートをしていませんでした。でも、今考えると人権を学ぶ機会はあり、そこへ参加し続けていれば人権問題について話せる仲間が出来ていたと思います。人権問題を考えなくても良い自分に気づかされました。また、自分自身が学ぼうと、知ろうとしない、見えなくなってしまうと思いました。

班の仲間や助言者の方は、いろんな環境の方々ですので、全員が集まれる機会は難しいですが、それでも気が向いた時に、集まれるひとたちで集まって近況報告をしています。

（次ページにつづく）

卒業後も、集まれる機会を作り続けることでさらに近い存在になり、当時は言えなかったことや、今の悩みを話せることがあります。そして私自身もみんなに会うことで、気持ちが元気になります。モヤモヤすることを話せる安心出来る場所のひとつとして、これからも大事にしていきたいと思っています。

解放大学を卒業してからがスタートだと思えます。今、新しい人権問題を考える仲間が来ています。周りにいるかもしれない人権問題について悩んでいる、考えている人と繋がり、そしてそんな人たちを繋げられるように、自分に出来ることをやっていきます。そして、そのために人権問題を学び続け、自分自身の人権意識に指を向けていきたいと思えます。

\*\*\*

「あれから干支が一回り」

106期B班 松宮（藤井寺市）

早いもので106期での学びからもう12年になります。同期生の皆さん、B班の皆さんお元気ですか？

半年間に渡り普段の仕事や生活を過ごすだけでは気づき得なかった様々な人権課題について、皆さんと一緒に熱く語り合いながら理解を深め見識を広げる貴重な機会となりました。

あれからちょうど干支が一回りで、あの年に産まれた長女が今春に6年生になります。初めての子育てで楽しい反面、悩んだり迷ったり不安になったりと色々ありますが、子どもにとっての最善の利益を考える事の大切さとともに難しさも感じる今日この頃です。

これからも仕事に子育てに様々な場面で人権の視点を大切に取り組んでいきたいと思えます。

「あの日私は一番乗りでした。 . . . 」

109期C班 西川（広島銀行）

10年前の2015年春、それまで縁もゆかりもなかった大阪の地への辞令が下り、人権担当者として解放大学へ通うよう伝えられました。同時に担当した大阪同和・人権問題企業連絡会の諸先輩から解放大学の役割や修了する意義を伺っていたものの、開講までは不安で一杯でした。

なじめなかったらどうしよう？周囲とどう接すればいいんだろう？正直あまり眠れないまま初日を迎え、早めに到着したまだ準備中の教室で当時事務局だった川本さんから優しく声を掛けられたこと、C班という広島の人間にとって格別の編成に喜んだことを今でもはっきりと覚えています。

その後は回数を重ねるに連れ、弁天町駅からの足取りは軽くなり、現地研修や夜の課外研修を含め同期の仲間の方々との交流はとても貴重な経験となりました。

今は広島のに戻りましたが、大阪の地での「まなび」を忘れることがないよう、日々の「ふりかえり」を心掛けております。

\*\*\*

「解放大学での学び」

112期C班 宮崎（西山浄土宗）

解放大学を受講したきっかけは、人権擁護推進担当者の候補として基礎・基本を勉強してきなさいという職場(宗務所)からの薦めでした。

多岐にわたる人権問題について、また取り組む意義や方法についてわかり易くお教えいただき、毎週々が発見の連続でした。

そして、それまでの自分がいかに自らのマジョリティ特権に気付くこともなくのんびり生きてきたのか、宗教者としての自分を恥じました。

また、フィールドワークで訪れた地域の空気を感じ、生まれ育った街や文化に誇りをもって生きる方々と接する度に、あらためて差別は「する側の問題」であると確信しました。

講師や助言者から得た知識は勿論、多様な仲間との語り合いで得た多彩な視点は、現在宗派の人権擁護推進担当者を務める私にとって途轍もなく大きな財産です。

今後も、解放大学での学びを大切に知識・意識のアップデートに努めます。

\*\*\*

「今の業務にもいかしています」

113期B班 山崎（大阪府）

2019年113期を無事卒業して、早5年が経ちました。

受講していた当時は、「公正採用選考」にかかる業務をしていたため、受講内容がダイレクトで、日々の業務のバックボーンになり、内容の濃い時を過ごしたように思います。

現在は、エルおおさか10階で、労働相談を担当しています。労働相談には、労働関係法令の知識はもとより、相談者に対する傾聴や、様々な環境を背景とする悩みなど、人生相談に近いものまで多岐にわたります。

さらに、労働相談事例を踏まえ、企業や学校、団体等へ、労働関係法令の基本やハラスメント対策を説明するセミナーの講師などもしています。

解大で得た知識やワークショップの手法、自己啓発学習における深く自分を見つめるプロセスは、現在の業務にも強く影響していますし、活用できていると思います。

現在の業務のアピールがメインでしたが、解大の経験を踏まえ、5年前の思いにとどまらず、日々、人権意識をアップデートしてゆきたいと考えています。

エルおおさかにお越しの折には、ぜひ10階を覗いてみてください。

\*\*\*

「リベラルアーツと人権教育」

114期E班 二木（泉大津市）

解放大学50周年、誠におめでとうございます。

私は2019年の114期に参加しました。50代の半ば、人権担当課長として人権の普遍性や尊重の重要性について深く理解するために参加したわけですが、人権教育とは、人権を尊重するために留意すべき制約を学ぶのではなく、自由な思考や生き方をするためのリベラルアーツではないかという気づきを授かったように覚えています。

ただ、私の気づきは遅かったように思います。そうした意味で、私のような50の手習いではなく、むしろ若い人に向けて今後の素養となるリベラルアーツを学ぶ場として発展していただけたらと願っています。

今般、人権を取り巻く情勢は大きく変動しつつあるように感じられます。こうした中において、人権や倫理観といった本質的な感覚を培い、自分ならどうするかと考える総合的な人間力を養うことが何をおいても重要だと考えます。解放大学の更なる発展と貢献を心より願っております。

「振り返ればそこにある・・・解大」

115期C班 関（クボタ）

皆さん、こんにちは。解大が開講したのは、私が単身赴任で大阪に来て4か月の時。それから6年が経過しました。そして、今も続く単身生活・・・。

担当している仕事の一つに人権関係の教育、講師と教材作りがあります。全員向け、新入社員向けなど、毎年いくつもの教材をつくり続けています。内容は、人権の基本、動向、ハラスメントなど。「今年は何を取り上げようか？」皆で頭を悩ますところです。

そんな時、解大で第一線の先生方から、そして、多方面のテーマについて学んだことが活かされるのです。「マイノリティと人権について、ぜひ幹部に意識してもらおう!」。沈まりかけた編集会議が息を吹き返します。

次に、班長の経験で学んだコミュニケーションの活性化術。これは助言者の堀井さんからアドバイスを受けた部分でもありました。限られた時間で班の皆からいかに情報や意見を引き出すか、班としての結論に導くか。班長として毎回イメトレして臨みました。リーダーの立場にある今、この時学んだノウハウはフル活用です。

C班、助言者の皆さんと、またワイワイやりたいなあ。

\*\*\*

「修了後の交流と人権の学び」

117期G班 大見（JR東海）

117期を修了して3年が経過しました。117期はコロナ禍におけるリモート開催でしたが、G班では解放大学修了後、イベントを企画して毎年1回交流のできる機会を設

け、2022年度～2024年度は3年続けて京セラドームで社会人野球日本選手権大会（写真上）を観戦。G班のメンバー、解放大学でお世話になった事務局の川本さん、竹部さん、現在解放大学助言者でご活躍中の今井さん、同期のA班のメンバーも一緒に観戦し交流を深めております。2022・2023年度は初戦敗退でしたが、2024年度の初戦は3,000人を超える応援団にも後押しされ、息詰まるシーソーゲームに度重なる逆転劇、本塁打3本、8点の大量得点にスタンドも大いに盛り上がり勝利をおさめました。

また、2024年8月17日（土）に国立療養所長島愛生園の見学クルーズに参加し、ハンセン病の歴史などを学びました。（写真下）

学芸員の方による解説により、歴史館内部の展示室、広大な敷地内に残る棧橋跡・収容所跡（回春寮）・監房跡、納骨堂などを見学しました。らい予防法による強制隔離など人権についてあらためて考えさせられました。

解放大学を修了してから転勤等で班の7名全員が揃うことも叶いませんが、一緒に人権について学んだ仲間を大切に、今後も交流を深めていきたいと思います。



左端が筆者

## 「解大50周年とわたし」

64期・109期 山崎（当時 富田林市）

64期で同じ班だったNさんは、当時の解大では珍しかった民間からの受講生だった。どこか飄々としたところのある彼は、家族を愛する穏やかな人だった。

昨年11月、年賀状でのやり取りを続けていたNさんのおつれあいから、喪中による欠礼を知らせるお葉書をいただいた。悲しかった。

同じ班で鬼籍に入られたのは2人目かと思う。四半世紀の時間の流れを噛みしめる。

解大修了後、思いが空回りして精神的にしんどくなった私の職場に、班の仲間たちが訪ねに来てくれた。そこにはNさんの姿もあった。

「山崎さん、ぼちぼちいったらええんやで」。やさしい目をして、Nさんはそう言ってくれた。ありがたかった。

64期・109期と解大には二度にわたってお世話になった。「差別撤廃、人権社会の実現に貢献するリーダーを育成する」のが解大の目指すところ。しかし私は、現役時代にはそのような貢献は十分にはできなかった。5800人以上と言われる修了生の中には、私のような忸怩たる思いをもつ者が、他にもいるかもしれない。

そんな私にご縁があつて、116期からなんと「助言者」の末席を汚している。四半世紀の間に、人権課題は多様な拡がりを見せている。特にジェンダーギャップやハラスメントへの対応、多様性の承認の分野などでは大きく前進しているように個人的には思っている。（海の向こうでは、激しいバックラッシュが始まっているが…）

しかし、班討議の中で、様々な世代の受講生のみなさんと膝つき合わせて話してみると、（自身をも含む）無意識や本音の中に「深い差別の海」を垣間見ることがある。

差別は長い歴史と運動の中であぶり出され、ただされてきた。自らを問い建前と本音の間に橋を架ける自己啓発学習は、そんな「運動」の一つの最前線、主戦場なのかもしれない。

今の自分は、かつて自分を支えてくれた班のような仲間づくりに少しでも貢献できているのか。それを考えると、甚だ心許ない。

ひとつ言えるのは、解大の学びを経た卒業生が向き合う現場にこそ、次の解大の学びの課題あるということだと思う。その意味で、解大同窓会のつながりが豊かになること、今の解大ともつながっていくことが、とても大切だと考えている。

※山崎さんには2023年度より解放大学同窓会の副会長を担って頂いています。（事務局）

### 修了生通信「あしはら」もまた 解大の歴史を刻んできました

「あしはら」は、1984年の解放大学開講10年目に、当時会場のあった大阪市浪速区の地名にちなんで創刊されました。

その後、有料購読の期間など何度かのリニューアルを経て、2015年度より現在のPDFでの発行となりました。毎年度末に研究所のウェブサイトに掲載し、同窓会メール（現在の登録数は約800）でお知らせしています。



## 修了生のご活躍～自治体の人権啓発・相談の充実を

2011年度 解放大学102期 佐々木さん

102期を修了された佐々木さん（大東市）は、市内でのさまざまな部署を経て現在、大東市の人権政策監として活躍されています。府内でも有数の、市民・教育機関・事業所などと連携した人権推進のさまざまな取り組みを展開する大東市の人権政策推進の要職を担っています。

\*\*\* \*\*

解放大学第102期生の皆さま、ご無沙汰しております。そして102期生以外の皆さま、はじめまして。

私は第102期の修了生です。あれからもう13年が経ちました。当時を振り返ると、グループの仲間や講師の皆さんと熱く語り合った日々、実際に現場へ足を運び、肌で感じたフィールドワークの体験が今も鮮明に思い出されます。これらの貴重な経験は、今の私の仕事や人との向き合い方を形づくる大きな支えとなっています。

受講していた頃、私は高齢者施策に関わる仕事をしており、高齢者の生きがいや健康、介護、そして虐待の問題など、多くの課題に直面していました。どの問題にも「人権」という大切な視点が欠かせないことを強く実感する日々でした。その後はシティプロモーションや家庭教育支援事業にも携わり、さまざまな立場や価値観と向き合う中で、多くの学びと気づきを得ることができました。

現在、私は市の人権政策監として、人権啓発や相談業務の充実に取り組んでいます。「なぜ人権を尊重することができないのか」「どうすれば人権を自分ごととして考えられるのか」—そんな根本的な問いと向き合いながら、日々試行錯誤しています。

「人権」は決して特別なものではなく、私たちの日常の中に息づいているものです。ふとした言葉、ちょっとした行動が、誰かの心を温かくも冷たくもします。私たち一人ひとりが「自分の行動が誰かの尊厳にどう影響するのか」を意識することで、思いやりと優しさ、そしてお互いを尊重する気持ちが自然と育まれていくのだと思います。

現在、本市では部落問題に関する市民意識調査を実施し、その結果を基に啓発冊子を作成しています。多くの方々の声を丁寧に受け止めながら、皆さまにとって身近でわかりやすい内容になるよう心を込めて進めています。今年中には完成し、本市のホームページにも掲載する予定です。ぜひご覧いただければ嬉しいです。

解放大学での学びは、私にとって知識や経験だけでなく、「人としてどう生きていくか」という大切な問いへの気づきを与えてくれました。この学びは、今も私の心の中で大きな力となっています。これからも、さまざまな人権課題に真摯に向き合い、解放大学の仲間として、共に学び続け、支え合い、成長していけることを心から願っています。



市議会での一般質問で答弁する佐々木さん

## 修了生のご活躍～人権の問いを社内、社外の研修で

2019年度 解放大学115期 坂倉さん

115期修了生の坂倉さん（資生堂ジャパン）は、社内での人権研修の企画実施の他に、同社が加盟している一般社団法人公正採用人権啓発推進センターと大阪市企業人権協議会においても活躍されています。

\*\*\* \*\*

解大修了生の皆さん、お元気ですか？115期(2019年)の皆さん、ご無沙汰しています。この度、「解大の思い出や近況を『あしはら』に寄稿して欲しい」というご依頼があり、拙文をしたためることになりました。

思い起こせば、会社から突然に「人権啓発を担当せよ」との辞令を受けて、「ナニ？よく分からん、ど～すんの？」と、立ち尽していた自分を導いてくれたのが解大でした。

講座期間中、数多くある人権問題を次々に突きつけ、「お前自身は人権にどう向き合うのだ？」という【問い】を投げ続けてくれました。そして今も、社内・社外・私生活の中で、その【問い】に対する【答え】を探す日々が続いています。

先ず、社内業務の報告です。メインタスクは社内人権研修の企画実施ですが、ここでは折々のタイムリーな人権テーマを取り上げることにこだわりました。理由は簡単。今度は、私から社員に向けて、ホットな【問い】をぶっつけてやろうと企んだからです。

折しも解大修了年は、一般市民がコロナ差別に走り、翌年は世論を二分した東京オリパラが開催されるなど、「ぶつけるホットな【問い】」には事欠きませんでした。そして、結果論ですが、【問い】をぶつけられた社員の反応は、ナント、案外、宜しいのです。(笑)

続いて、社外活動の報告です。いくつかの人権団体で活動していると、そこでのご縁やしがらみ(失礼!)により、セミナー講師の依頼を頂くこともしばしばでした。正直、最初は「面倒くせ～なあ」と思わなかったわけではありません。でも、「これも【問い】の【答え】探しだ」と、頂いたお話は全てお受けしてきました。これも結果論ですが、「やらせて頂いて良かった」と感謝しています。本来なら出会うはずのない方々から、沢山の質問や意見や感想を頂いたことは、【答え】探しの貴重なヒントになったからです。

最後に私事の近況報告です。解大を修了して早や5年、社命としての人権業務もそろそろゴールが見えてきました(要するにリタイヤ)。それは、会社という拠り所を失い、前期高齢者という「社会的弱者」の仲間入りをすることでもあります。まさに「人権は人のためならず、巡り巡って自分のためになる」のです。一方、世界では人権に逆行する権力の勢いが増しています。そんな今だから、解大が投げ続けてくれた「お前自身は人権にどう向き合うのだ？」という【問い】に、改めて、これからも、自分ゴトとして向き合っていこうと思います。



事業所向けの研修で講師を務める坂倉さん

## 新しい仲間～解放大学119期（2023年度修了）

2024年5月11日（土）午後、解放大学修了後初めての修了生研修会を開きました。修了生26名と助言者の山崎さん、飯田さん、事務局の小西さんにもご参加いただきました。

研修会では、大阪府茨木市の道祖本地区（豊川地区）にてフィールドワークを行いました。同期修了生の今田さんに計画いただき、今田さんの職場である「茨木市立 豊川いのち・愛・ゆめセンター」での座学とともにフィールドワークを行いました。今田さん、誠にありがとうございました。

地元の部落解放同盟道祖本支部書記次長であり地域コーディネーターでもある福本憲和さんにお世話になり講話と地区内の案内もいただきました。

座学や地区内フィールドワークでは、

- ・公園跡地にブラック長屋があった頃（大正初期から1960年代初）の生活について
  - ・豊川いのち・愛・ゆめセンターでの識字教育の取り組み
  - ・知的障害を持つ中学生が福井高校にも通学できるようにする運動をルーツに建設された「あゆむ」
  - ・地区の方々もそれが出来たことを暫く気付かなかった大阪茨木モスクの存在
  - ・東日本大震災で被災した東北や関東のムスリムの留学生を道祖本支部でも多数支援したこと
  - ・現在も留学生を中心に、近隣から大勢の方がモスクにお祈りに来ていること
  - ・コリア国際学園設立計画当初における一部の地区住民の反対運動について
- など、多くの事を教えていただきました。

もともと研修会に参加するにあたり、道祖本地区の被差別部落としての歴史を学ぶことだけをイメージしていましたが、それだけではなく、自身への差別に立ち向かってきた地区の



方々が、福祉・宗教・教育に関する様々な面でも認め合い、時には大きく葛藤しながらも尊重し合えるまちづくりに取り組まれてきたことも学ぶことができました。そして現在では、多様な人々が互いを認め合いながら暮らす、多文化共生社会が自然体で営まれていると感じることができました。

研修会後には、場所を移して親睦会も行い、近況報告を中心に話に花が咲きました。

解放大学卒業後、学びをどう活かすかや学びをどう深めるかは個人に委ねられていますが、いざ卒業して気づいたのは、能動的に探せば学ぶ機会は沢山用意されているということです。

これからも個人で、班で、119期で、また期を越えた解放大学卒業生単位での学ぶ機会を、大切にしていきたいと思っています。

（119期修了生幹事代表 水間）



## 交流だより・修了生からのメッセージ

コロナ禍で停滞していた修了生の交流も世の中の流れと同様、以前の様子に近づいてきているようです。

時間の経過とともに期単位での取り組みは難しくなっているかと思いますが、班単位や期を超えたつながりなど、50年を超えた解放大学のつながりをこれからも大事に、交流をつづけてもらえたらと願っています。

今回も交流だより・メッセージをいただきましたこと、感謝して発信します。

\*\*\* \*\*

2012年5月から6か月間、毎週火曜日に弁天町に集合して「人権とは？」について学びました。勤務先も年齢もバラバラのメンバーが、研修を重ねるなかで仲間意識が生まれ、事あるごとに駅前の居酒屋で飲んだことを思い出します。

昨年は11月に卒業後13回目の同期会を開催。昼は滋賀県の石山寺にフィールドワーク、夜は堺筋本町の中華料理店に。13名が参加して、解大当時の思い出と一人ひとりからの近況報告に花を咲かせました。



皆さんも貴重な解大講座の学びの場を大切に、仲間との「絆」を深めていってください。

(103期幹事代表 我妻)



107期修了生の皆さんとは、修了後数年は活発に学習や交流を深めていましたが、既に10年を経過したことに加え、コロナ禍によりここ数年途切れておりました。

修了10周年を機に、当時の事務局でお世話になった川本さんにご協力いただき、久々の交流会を2月8日に実施しました。集まったのは修了生や助言者の皆さん5名でしたが、その他の方々にも近況のご連絡をいただき、また現在の連絡先の交換など、次回以降の開催に向け、明るい話題が多くありました。

修了生の皆さんも受講当時とは異なる環境でそれぞれ頑張っておられますので、これからも地道に交流を続けていきたいと考えています。(107期幹事代表 小松)



109期では、2024年9月7日(土)に、約5年ぶりに集まりました。参加は16名とオンライン参加が1名です。109期は全員で34名、なかなか全員が集まるのは難しいですが、コツコツと活動をすることでいつまでも109期がつながっていけばいいと思っています。

新型コロナウイルスの影響もあり、長らく実施が見送られていましたが、今回ようやく再開することができました。そろそろ再会してはどうかと数名の方からご意見をいただき春ごろに日程を決めました。

(次ページにつづく)

稲刈りの前、夏休み後、新学期はじめて行事ごとが少ないことなどを考慮し、9月1週目の土曜日にしました。

当初、現地研修を計画していたのですが、まだまだ暑いこと、久しぶりの再会なのでお話をしたいといった理由から、室内での研修会の形をとりました。

DVD視聴、ワークなどを予定していましたが、参加された皆さんの近況報告であつという間に3時間が過ぎ、内容を大幅に変更することになりました。

その後、懇親会場へと移動。久しぶりの交流にお話は尽きることがなく、解放大学の受講時を思い出す、とても楽しい時間を過ごすことができました。

期の交流会をせっかく復活できたので、この後も定期的に研修を続けたいと思います。

今年で解大109期受講から10年になります。皆が元気で顔を合わせて笑いあえる機会をつくっていけるよう、修了生同士のつながりを深め、皆さまとの関係を強化していけるよう、継続的な活動を行っていきます。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

次回と同窓会では、さらに多くの方と再会し、また新たな交流が生まれることを楽しみにしています。

またお会いできる日を心待ちにしております！

引き続き、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(109期幹事代表 飯田)



この2月7日に110期C班の同窓会がありました。助言者、事務局の方が加わり、年2回をもう10年近く続けております。その間、結婚・転勤・転職・引超し・子どもの成長などそれぞれのメンバーにいろんなことがあり、今では仲の良い家族のようです。

(110期C班 村澤)



2024年4月6日(土)に第113期の交流会を行いました。「鑑識レコード倶楽部(仮称)」という仮題をつけ、

- ・人権という切り口で特徴のある楽曲のレコードを選び、みんなで聴く。
- ・その楽曲のコンセプト、エピソードなどを選出者から披露してもらう。
- ・参加者で感想、関連エピソードなどを言い合う、といった進行でした。

当日は沢良宜の小西支部長にもご参加いただき、音楽を聴きながら様々な意見交換会ができました。会場は豊川いのち・愛・ゆめセンターで、そこで勤務する同期の和田さんが手配してくださいました。

久しぶりにレコードで音楽を聴くと、我々レコード世代は色々な思い出話が出てきて楽しかったです。

今年もどこかのタイミングで開催したいと考えています。(113期幹事代表 市原)



☑ 解放大学を卒業して、はや丸6年が経過しようとしております。この間コロナ禍で縁遠くなっておりましたが、このたび114期E班のメンバーにて同窓会（新年会）を開催いたしました。

卒業生8人中5人に加え、助言者の堀井さん、さらには当時の事務局川本さんと7人で道頓堀の居酒屋に集合いたしました。

久しぶりの再会となって近況を報告し合う中では、6年という月日の経過にて退職や異動等によって環境が変わり、解大で学んだ人権との関わりを活かし切る立場ではなくなった人もいましたが、当時を懐かしみつつ和気藹々と賑やかに語り合うことができました。

話題は、助言者によるパワハラ行為（？）いやいや適切な指導の思い出、またアイ・コンタクトや机下のハンドアクションなどによって無言のプレッシャーを受けたことなど、当時の自己啓発学習のエピソードで大変盛り上がりました。

さらには弁天町界隈の飲み会でのさまざまな出来事も懐かしく思い出されました。

とにかく我がE班はよく学び（笑）、よく飲みプラスしてよく歌ったという解大当時の楽しい記憶がよみがえりました。

その習性が身につけていたのか、当日も居酒屋を出て二次会のカラオケを心置きなく楽しむこととなり、その余韻に浸りつつ、次回同窓会での再会を誓い合いそれぞれの家路につきました。（114期E班 森田）



☑ 解放大学117期A班では、昨年末12月5日に同窓会（兼忘年会）を開催しました！

今回は私が幹事となり、場所は梅田のとある居酒屋。助言者や事務局の方もご参加いただき、まるでタイムマシンに乗ったかのような懐かしく楽しい思い出話で盛り上がる、あっという間の時間でした。

117期はコロナ禍真っ只中のオンライン研修が中心で、教室で受講したメンバーはごく僅かでしたが、年に2回程度開催する同窓会は、研修で同じ時間、同じ苦労を共にした「仲間」を思い出す心地よい瞬間でもあります。

また、卒業から約3年が経ちましたが、同窓会皆勤を目指す「呑み助ブラザーズ」3名による「ほろ酔い幹事会」も楽しみな恒例行事になっています。

これからも長く続けていきたいと思えます。皆さん一緒に頑張りましょう。

（117期A班 道林）

☑ 解放大学120期のみなさま、修了おめでとうございます。

思い起こせば、我々解放大学117期はフルリモートでの約8ヶ月間でした。あれからもう3年以上が経ったとは、「光陰流水の如し」って本当ですね。

その影響もあってか、修了後の同窓会（もちろんリアル開催）については、助言者さまや当時の事務局（川本さん）にも出席いただき、年間2回のペースで現在まで6回実施しています。

解放大学でさまざまなことを学んだことでメンバーの人権意識も向上し、同窓会についても年間1回は学びの場としています。

先日2月26日（水）には、解放大学で大変お世話になった「部落解放・人権研究所」を訪問し、少しの時間ですが事務所内を案内いただきました。これは「機会があれば訪問してみたい」というメンバー（自治体所属）の要望を踏まえて実施したものです。

（次ページにつづく）

といいますのも、117期はフルリモートで弁天町へ出張することが一度もなかったからです。それにしてもあれだけの業務を少人数でこなしておられる研究所のみなさんは本当にすごいなと感じました。

その後は当時お世話になった竹部さんを囲んで意見交換会を実施。懐かしい話で大いに盛り上がり、あっという間に時間が過ぎて、今回も大変有意義な同窓会となりました。

今後も解放大学で出会えた“縁”を大切に交流を深めていきたいです。

(117期B班 磯貝)



📧 私たちは、第117期部落解放・人権大学講座F班の修了生です！

それだけで「アッ、かわいそうに…」とってくれる方もいるかも知れません。そう、フィールドワークを除き完全リモート世代です。フィールドワークも3回の内それぞれ1回選択して参加の形でしたから、班のメンバーで修了までに会ったことがあるのは3人だけ、今もまだ会えていない方が2人います。住友電工のOさん、泉大津市のTさん、お元気ですか〜〜！？

そんなF班ですが、このまま離別してしまうのはせつかくの出会いが「勿体ない」ということで、『なんばで集まれる人だけでもの会』を2024年3月に開催しました。解大事務局だった川本さんをゲストに、本当に懐かしい面々が集まり、互いの受講姿勢やレポートをネタに語り合い、最高に楽しい時間を過ごすことができました。講義や討論中にちょくちょく画面から消えていなくなる（沈没）人や、話し出すと止まらなくなる人の笑い話、家族との課題を人生のハードルにして今も闘っている仲間の話など、濃くて濃くてみんなドロドロに溶けるようなひと時でした。そして最後には、これ

からも何時でもどこにいても、互いの今後の健闘を祈り合い、その先にあるいつかの再会を誓ってお別れしました。

本当に楽しかった。みんなありがとう！またそのうち（どのうち？）ヨロシク

(117期F班 清水)



以上、修了生の皆さん、今回もメッセージ有り難うございました。

今後も皆さんからの多くの交流日より、メッセージをお寄せいただけるよう、交流が盛んになることを期待しています。

## 同窓会メールの登録を

解放大学や部落解放・人権研究所に関するイベント情報など、「同窓会メール」を配信しています。今後の連絡のためにも、ぜひ登録ください。

解放大学修了生の交流の取り組みやご活躍など、お知らせいただければうれしいです。

メール登録・変更については、お名前、メールアドレス、できれば修了期を下記の事務局アドレス宛にお知らせください。

[kaidai40@マークblhrrri.org](mailto:kaidai40@マークblhrrri.org)

〒552-0001

大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階

(一社) 部落解放・人権研究所

解放大学事務局